

1.子ども食堂をめぐる運営者の思いと利用者のニーズとのずれ：
子ども食堂の活動と利用者のニーズに焦点をあてて

益田隼汰

第1章 子ども食堂の機能

子ども食堂は、近年急増しておりその役割として、貧困家庭の子どもへの無料若しくは安価での食事提供だけではなく、地域コミュニティの形成など様々な期待がされている。そこで本稿は、愛知県の子ども食堂運営者と利用者に対する調査票調査から、運営者が目指す子ども食堂と、利用者が求める子ども食堂が必ずしも一致していないという点を確認し、こうした同床異夢の状態を軽減するには何が必要であるかを検証しようとするものである。

このことに関連する先行研究から子ども食堂が有する機能として「・食事支援（孤食の解消）・子ども支援（安心できる居場所の提供）・地域支援（地域内のつながりや信頼関係といったソーシャル・キャピタルの醸成）」（柏木）の3つの事があげられている。また、これらの機能を子どもの視点からとらえると、「・「食を通しての支援」機能・「居場所」機能・「情緒的交流」機能」（吉田）の3つの機能があげられている。この先行研究の結果と、愛知県の子ども食堂で行った調査票調査の結果を比べると、大きな違いはないように感じられた。しかし、これらの機能は子ども食堂運営者の思いが反映されたものであり、利用者の意見については触れられていない。そこで、子ども食堂利用者に向けた調査票調査の結果と照らし合わせ、運営者の思い・利用者が求めていることを比較し、一致している部分とずれが生じている部分を明らかにし、今後運営者の思いとプラスにどのようなことをしていけば利用者の求める子ども食堂に近づいていくのかを明らかにしていく。

第2章 調査結果

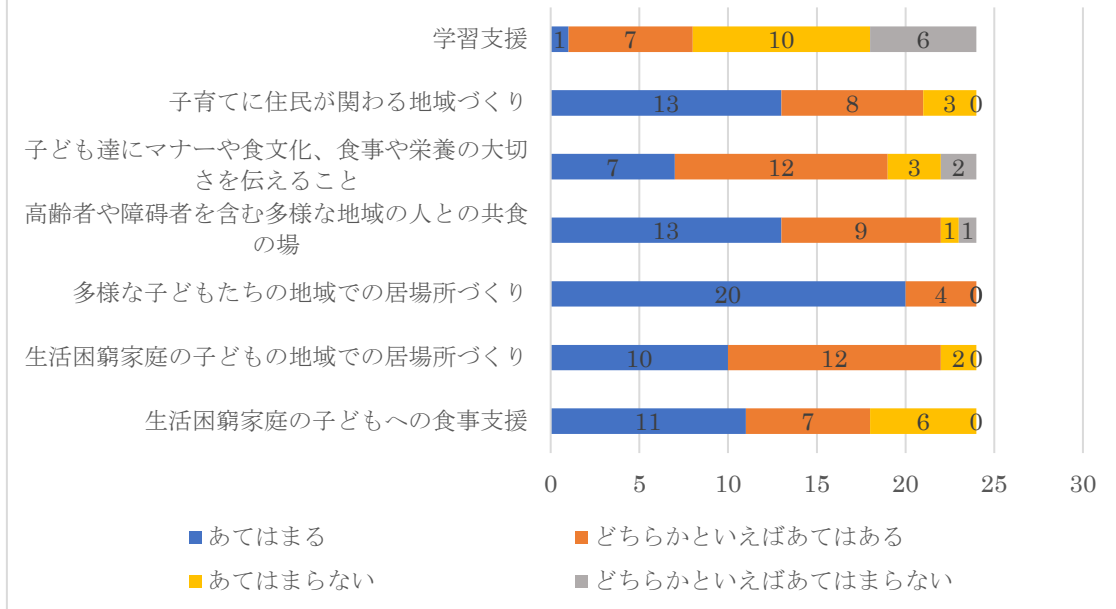
第1節 子ども食堂の主な活動と利用者の子ども食堂に来る目的の比較

子ども食堂の主な活動と利用者の来る目的を比較することで、運営側が心がけていることと、利用者側の来る目的が一致しているのかを明らかにしていく。

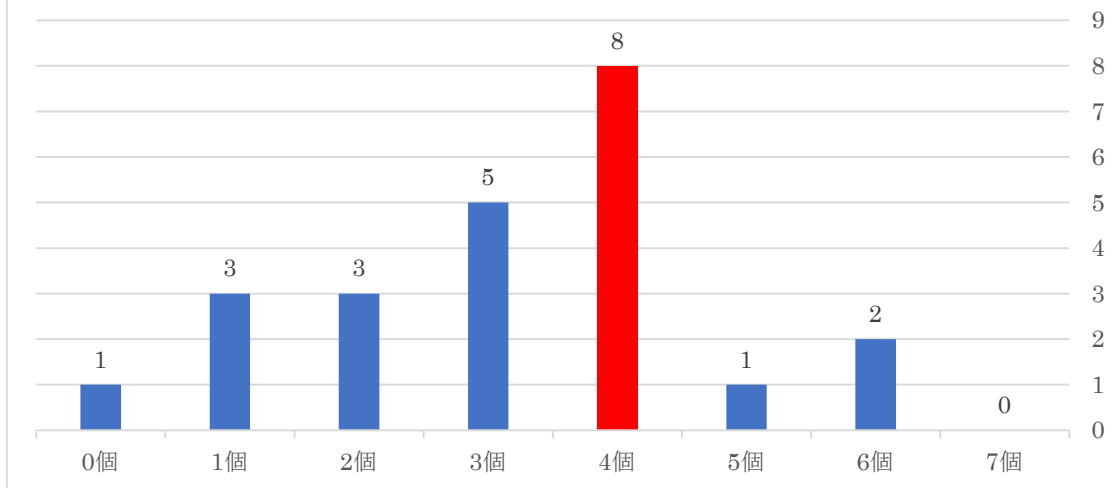
【運営者】子ども食堂の主な活動【利用者】子ども食堂に来る目的の2つの項目を比較調査していく。

【運営者】子ども食堂の主な活動の集計結果は以下のようになっている。

子ども食堂の主な活動



主な活動の数

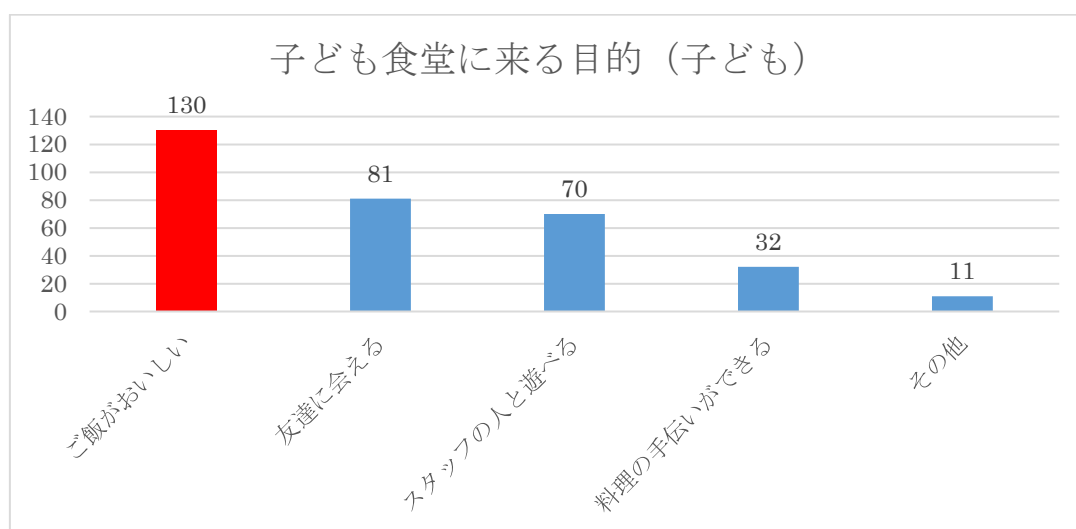


子ども食堂の主な活動として最も多かったのは、多様な子どもたちの地域での居場所づくりであった。次に多かったのが、子育てに住民が関わる地域づくりであった。また、学習支援については、他の項目と比べると極端に少ないことが分かり、これらのことから、子ども個人というより地域の中で子どもたちの居場所づくりや食事という部分をより重視していると言える。

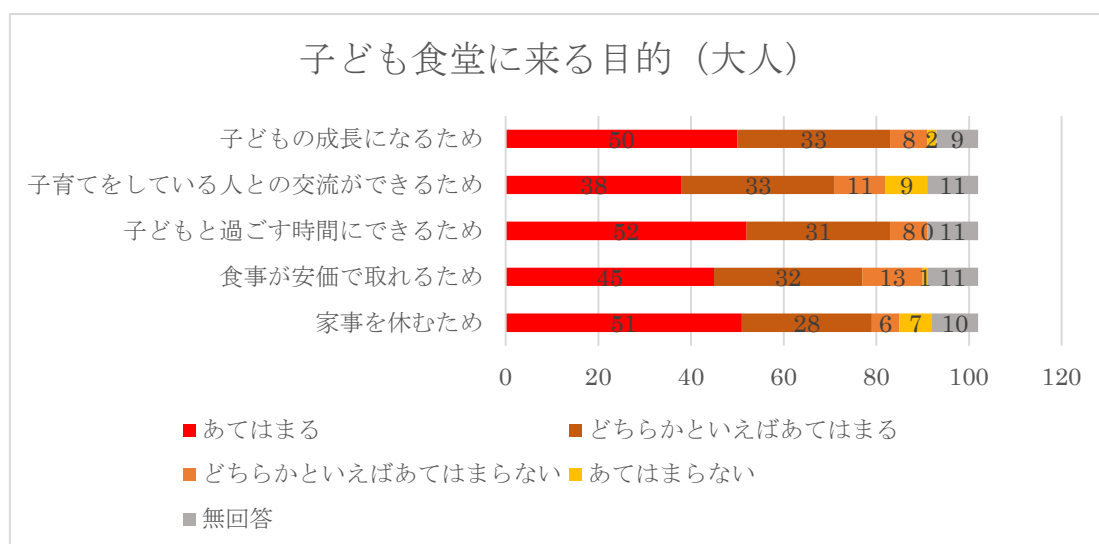
また、それぞれの子ども食堂での主な活動で「あてはまる」と回答したものだけの集計をした結果、最も多かったのが4個という数になった。7個全ての活動を行っている子ども食

堂はなく、0個の子ども食堂は1か所であり、0～4個までは右上がりとなっており、子ども食堂を開催するにあたって意識していく部分的をある程度絞って開催していることが分かった。

【利用者】 子ども食堂に来る目的の集計結果は以下のようになっている。



まず子どもが来る目的の結果としては、ご飯がおいしいという理由が最も多く、次に多かったのが、友達に会える・スタッフの人と遊べるという理由であった。また、その他の部分では、落ち着く・おもちゃがたくさんあるといった理由もあげられておりこのことから、子どもは食事以外にも目的を持ち子ども食堂を利用しているということが言える。



次に大人が来る目的としては、子どもの成長につながるため・子どもと過ごす時間にできるため・家事を休むためという項目が最も多く、食事が安価で取れるためという項目を上回

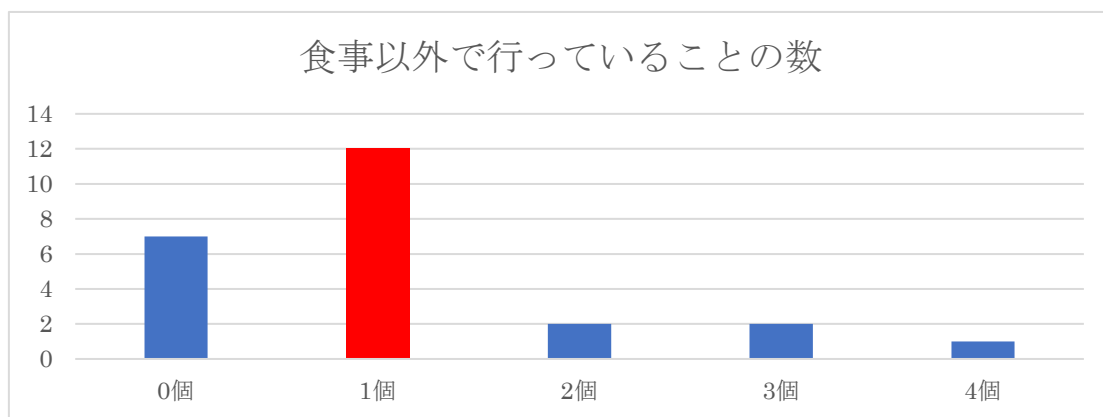
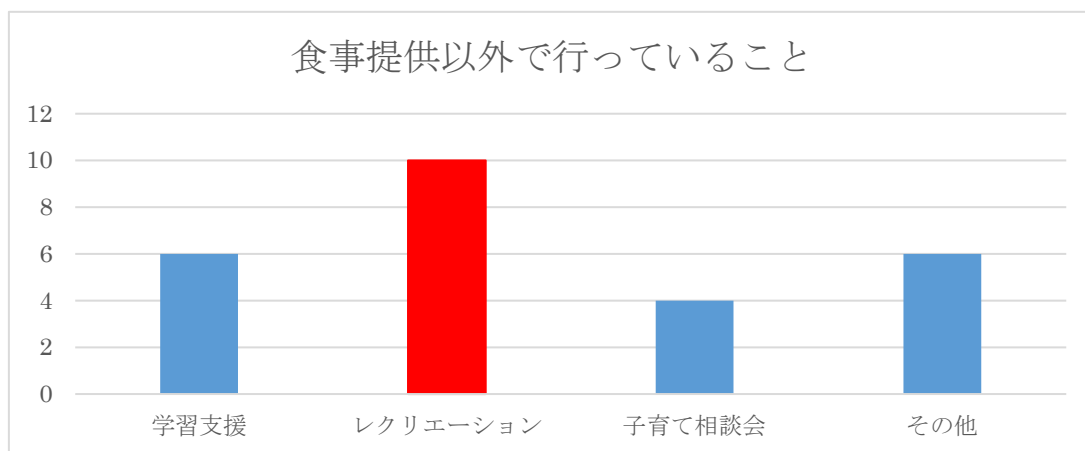
った。また、食事が安価で取れるための項目で「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」と答えた人が14人と二番目に多いことが分かり、これらのことから、利用者は、食事を安価で取ることができるという理由もあるが、そのこと以上に育児の部分（子供の成長・子どもとの時間・家事を休むなど）に重点を置き子ども食堂に来ているということが言える。

そしてこの結果から、子どもが子ども食堂に来る目的で多かった友達に会えることやスタッフの人と遊べるという項目は、運営者側の地域づくりの部分と一致していると言えるが、大人が子ども食堂に来る目的として、子どもの成長を目的としていることや第三節の〈お子さんとの普段の生活〉の中の知能や技能を教える機会が子ども食堂に来ている家庭の子はさほど多くないことが分かりそのような機会を求めていると言える。このことから運営者側の学習支援が不十分であり一致していない部分があると言える。

第2節 運営側が感じている課題と利用者の要求の比較

最後に運営者側が感じている課題と利用者の要求を比較していく。この比較調査を行うにあたって、【運営者】食事提供以外で行っていること・課題【利用者】充実させてほしいこと・お子さんとの普段の生活の4つの項目を調査していく。

【運営者】食事以外で行っていること・課題の集計結果は以下のようにになっている。



上記の結果から食事以外で行っていることで最も多かったのはレクリエーション、次に多かったのが学習支援という結果になった。また、その他の部分に関しては、読み聞かせやピアノ演奏・支援者、参加者間の関わり合いの場を設けるなどがあり、食事以外の事もしたいが提供する場所がないという回答もあった。また、食事以外に行っていることの個数を集計した結果1個という回答が最も多かった。そして、1個と回答したうちの7か所の子ども食堂が「レクリエーション」と回答しており、食事以外の事の提供に当たって、運営側は「レクリエーション」が最も負担なく手軽に行うことができるということが言える。次に食事以外で行っていることの数と子ども食堂スタッフ・利用者の割合の関係性について調査した。その結果、0個と回答した子ども食堂の多くが利用者に対してのスタッフの割合が「0.1」となっている所が比較的多いことが分かった。また、利用者・スタッフの割合が「0.1」となっている子ども食堂のほとんどがレクリエーションを行っていないという結果になった。

今回の調査票調査で回答を受けることができたレクリエーションの種類は以下のようになっている。

冬にもちつき、夏に流しそうめん、不定期で花火など 子ども主催のクリスマス会
こどものまち（育成支援）
別室にて食堂オープン前に「わくわくタイム」を開催
絵本の読み聞かせ、みんなでダンス、昔遊びなど。その時々参加者さんなどメンバーの得意分野で自然に関わる感じです。
夏休み企画として流しそうめん。スポーツ推進委員によるニュースポーツ大会
調理教室、スイーツ教室、コンサート
折り紙、絵本読み聞かせ、音楽演奏
夏祭りを行いゲームをしたりかき氷を作った
地域の方と一緒に「町紹介」として地域の説明や散歩、商店の人によるお話し、消防署見学などを行っている。
おやつ作り、絵本読み、楽器演奏、手品、おやつビンゴ、防災の話・グッズ作り、折り紙、みかんアート、あやとり、花火、スイカ割り、お花見、落語を聞く、昔話を聞く、お手玉
地域で活動されている団体や、子どもたちが郷土愛を育めるため、歴史や民話の団体を呼んでいます。
学生企画（季節もの）、絵本・紙芝居、手品
折り紙、トランプ、シューボックスイベント(クリスマス用に、アジアの国に向けてプレゼントのパッキングパーティー)

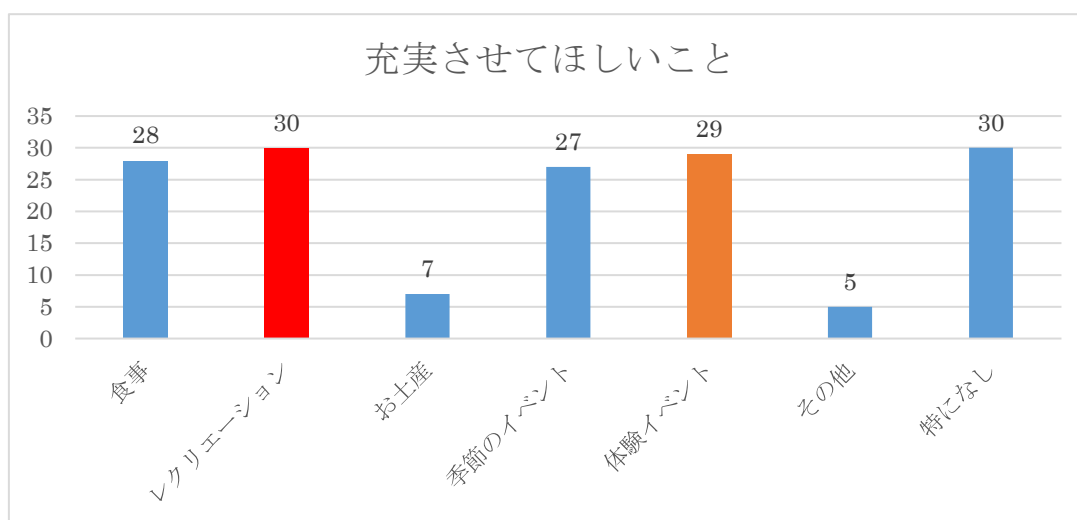
次に課題では、

スタッフ不足
収支の計算
子どもたちが自分たちで食事を作る力をつけること

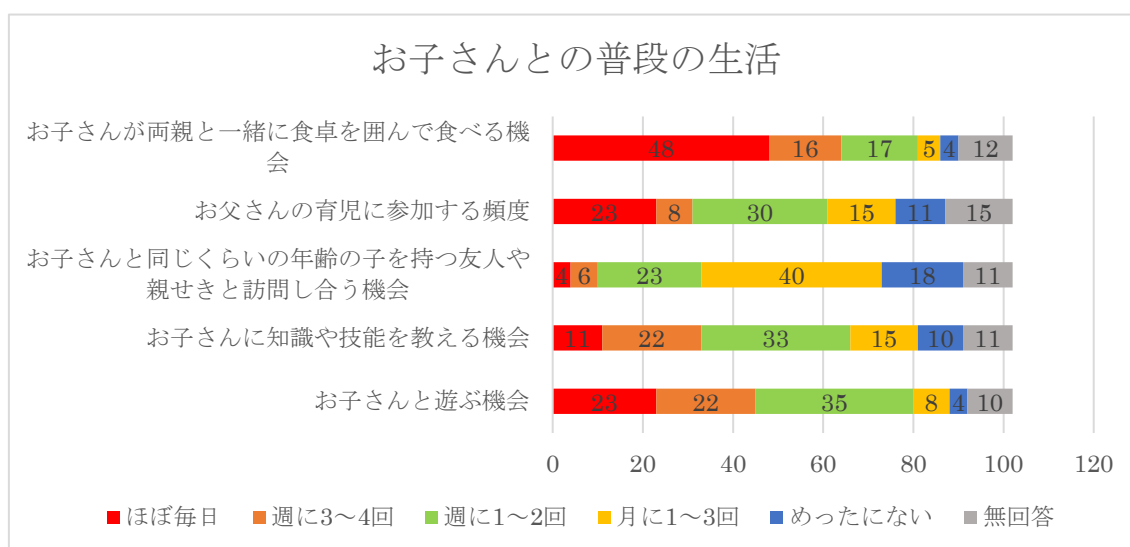
ボランティア人数確保、安定した資金確保
地域住民のかたへのさらなる周知
支援者と参加者のバランスのとり方 調理スタッフとホールスタッフ、参加者の関係性、結びつきをどのように作っていくか
16:30 開始時あまり人が来ないので、OPEN の時間を変更したほうがいいのかということ
参加人数が多いときは、全員座りきれずスタッフが別の場所で後から食事、となってしまう、また親子での参加も受け入れていたが友達同士約束して何組もの親子が来るようになり、それだけで満席近くなってしまうため、今は親子連れの参加はうけていない。本当は誰でも参加可能にしたい
公的施設での開催、保健所との関係
参加者が多く、食材提供時に均等に配膳すると、小学生高学年以上の子どもから量が少ないと言われた。おかずの数は増やせないが、ご飯の量を増やす対応をするなど工夫が必要。また、子どもの危険行動に目が行き届かないことがあり、今以上に注意が必要
経営持続可能な経済的状況、参加者のための駐車場の確保、たんぱく質食材の調達、子どもへの教育的配慮
参加者の募集、代表や役員の選任、寄付が集まりにくい。
地域に偏りがある。
スタッフの確保,参加者の安全性(子どもが走り回る)
参加人数にムラがあること, 食材が余ったり足りなかったりすること
安全に運営する事・運営回数を増やすこと
子どもより大人の方が多いのでもっと子供に来てほしい

これらのことがあげられ、根本的な問題から細かい問題まで様々であった。根本的な問題では、スタッフ不足・資金不足・開催場所のスペースなどがあげられた。細かい問題としては、子どもの参加率が低いこと・参加人数にムラがあること・開催時間・教育的配慮などがあげられた。

【利用者】充実させてほしいこと・お子さんとの普段の生活の集計結果は以下のようになっている。



充実させてほしいことでは、レクリエーションが最も多く、次に多かったのが、体験イベントであった。また、季節のイベントも27票と多く、これらのことから利用者は、普段の生活や家族だけでは体験できないことやイベント事などを通しての人との交流機会を子ども食堂側に求めていることが見て取れる。



お子さんとの普段の生活では、お子さんと同じくらい年齢の子を持つ友人や親せきと訪問し合う機会という項目での「めったにない」の回答が最も多く、次に多かったのが、「月に1~3回」の回答であった。このことから、子ども食堂利用者には、ママ友などと交流する機会がそれほど多くない人が多く、こちらでも上記の「充実させてほしいこと」で見て取れた人との交流機会を求めているということが見て取れた。また、先にも述べた通り、お子さんに知識や技能を教える機会という項目も全体的に頻度が少ないように見て取れるので学びの機会も子ども食堂に求めているのではないかと感じる。

これらの結果から、利用者側は普段の生活では体験できないイベントやそれを通しての人との交流機会や学びの機会を求めていることが分かった。しかし、運営側が食事以外で行っていることと利用者が充実させてほしいことの双方で「レクリエーション」が最も多いことが分かる。これは、レクリエーションを行っている子ども食堂は多くあるが、その頻度が少ない。または、参加人数が多い子ども食堂でレクリエーションを求められているが行っていない子ども食堂があるということが考えられる。また、運営側の課題の部分から、運営側は利用者側の要求に応えたいが、スタッフ不足や開催場所のスペースの関係といった根本的な問題でその要求に応えられない場合もあるということが分かった。

第3章 利用者が求める子ども食堂に近づけるために

本稿では運営者の子ども食堂を開く目的・利用者の子どもの食堂に来る目的を、運営者・利用者それぞれで行った調査票調査をもとに調査してきた。この調査するために調査票の集計そのグラフを用いて調査を進めてきたが、本章ではそれらの調査に関する結論をまとめていく。

前章第1節の子どもの食堂の主な活動と利用者の子どもの食堂に来る目的の比較調査の結果から、子ども側のおいしいご飯が食べられるという理由や友達・スタッフの人と遊ぶことができるといったニーズは満たされていると言え、大人側に関しても子どもと過ごす時間・家事を休むためといったニーズは満たされていると言える。しかし、大人側が子ども食堂に来る目的の「子どもの成長につながるため」という項目の割合に対して、子ども食堂の主な活動の「学習支援」の割合が少ないことが分かる。「子供の成長につながるため」というのは、人との交流など様々な経験を積むということであると思うが、その中に少なからず勉強も入っていると考えられる。このことを考えると愛知県内の子ども食堂では、学習支援を行っている場所が少ないように思う。しかし、第2節の運営者の課題の部分から運営側にもスタッフ不足やスペースの関係上現時点では行うことが難しいところもあるというのが現状であり学生ボランティアの確保や行政などに協力を煽り開催場所の確保を行うことが必要であると感じた。

前章第2節の運営側が感じている課題と利用者の要求の比較調査では、人との交流機会を求めているということが見えてきた。しかしこれは、子どもが人と交流するというだけでなく、親同士の交流機会というもの含まれていることが利用者アンケートの集計グラフから言える。つまり、利用者側は子ども食堂に参加する事で同じ年代のお子さんを持つ親と交流し、子育てについて知識を吸収することも1つの目的としているということが言える。しかし、愛知県内の子ども食堂で子育て支援・子育て相談会のようなものを行っている場所は少数であり、このようなことを行っている子ども食堂を参考にし、行っていくことが必要であると考え。また、運営側の課題の部分でスタッフの確保や資金面の問題・参加者の確保のような根本的な問題が多いことが分かった。

以上のことから利用者が求める子ども食堂とは、安価で食事がとれるということの他に、子どもの成長につながる学習支援やイベントなどを通して様々な人との交流機会ができること、子育て支援などの親にとってもプラスになるような子ども食堂が求められているのではないかと考えた。しかし今回のアンケート調査や子ども食堂ボランティアをしてきた経験から、開催する場所によりその地域の特色というものがあると感じたので一概には言

えず、それぞれの子ども食堂で目安箱のようなものを設置し利用者の要望にできる限り応えていくということが最も効率よく利用者が求める子ども食堂に近づけることができるのではないかと考えた。

参考文献

農林水産省、2018年3月、『子ども食堂と地域が連携して進める食育活動事例集：地域との連携で食育の輪が広がっています』、<http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/00zentai.pdf>、閲覧日：

2019年1月31日

七星純子、2018、『第1章 なぜ、子ども食堂は社会的インパクトを与えたのか：「子ども」イメージの崩壊と「食」を通じた居場所づくりの可能性』、閲覧日：2019年1月31日

柏木智子、2017年12月、『「子ども食堂」を通じて醸成されるつながりの意義と今後の課題－困難を抱える子どもの参加と促進条件に焦点をあてて－』、閲覧日：2019年2月3日

吉田祐一郎、2016年9月、『子ども食堂活動の意味と構成要素の検討に向けた－考察－地域における子どもを主体とした居場所づくりに向けて－』、閲覧日：2019年2月3日